

公募展・特別企画展など加え多彩に展開
第50回宮城県芸術祭
 公益法人の役割に沿う祭典に



公益社団法人
宮城県芸術協会
 (郵便番号 980-0802)
 仙台市青葉区二日町16-1
 二日町東急ビル5-B
 電話 (022) 261-7055
 F A X (022) 214-5184
 E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
 発行者 早坂 貞彦

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 10 日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。



第五十回芸術祭の開会式は、九月二十日午前九時四十五分から、せんだいメディアテーク五

巡回展は松島と大和で

公益社団法人移行後初となる第五十回宮城県芸術祭が、九月二十日からの書道展、工芸展を皮切りに、十一月二十一日の閉会式までの二ヵ月間にわたって開かれている。

階の書道展会場で行われた。式典には主催七団体の宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新報社、宮城県文化振興財団の代表と来賓、芸協役員、書道、工芸を中心とした会員らが多数出席した。

芸術祭会長の早坂貞彦芸術協会理事長が「今回は第五十回という記念すべき芸術祭になるが、第一回目の開催は東京オリピック直後で、全会員が青年のような目で芸術の蕾を膨らませた」とあいさつ。「新たに公募展と特別企画展を行うことで会員以外の方々の交流が生まれ、

公益社団法人の在り方に沿う芸術祭になった」と述べた。また、名誉会長の仙台市長(代読・武田均仙台市市民局長)は「宮城の秋を彩る芸術祭は公募展が登場したことで、多くの市民が参加できることになり、活力ある創作に欠かせないものとなった」とあいさつした。

引き続き書道部の千葉蒼玄部長が作品解説を行い、書道作品は全国と比較しても遜色のないものであることなどを説明した。この後、主催七団体代表者によるテープカットで芸術祭が開幕した。写真。続いて作品観覧に移り、開会式出席者が書道、工芸部員による熱心な説明に聴き入った。

メディアテークでは十月九日まで、書道展、工芸展、絵画展、写真展、華道展、彫刻展が開かれ、

第五十回宮城県芸術祭の閉会式は、十一月二十一日午後六時から、ホテルメトロポリタン仙台で開催される。表彰式のあと各賞の受賞者を囲んで、来賓と芸協会員の懇親会が開かれる。

11月21日に閉会式
ホテルメトロポリタン仙台

巡回展は松島と大和町文化観光交流館、写真展と工芸展が大和町まほろばホールでそれぞれ開かれた。

さらに、芸術祭期間中に仙台市内で茶会、音楽会、長唄演奏会、芸術祭参加行事の仙台三曲協会定期演奏会、洋舞合同公演が相次いで開催され、文芸年鑑も発行された。

また、象潟・酒田・鶴岡方面への文学散歩は多くの参加者で盛会となった。文芸祭では芸術祭文芸賞受賞者による感懐の発表が行われ、原田夏子会員(短歌)が「東日本大震災被災地のうた」を取り上げた講演を行った。

また、象潟・酒田・鶴岡方面への文学散歩は多くの参加者で盛会となった。文芸祭では芸術祭文芸賞受賞者による感懐の発表が行われ、原田夏子会員(短歌)が「東日本大震災被災地のうた」を取り上げた講演を行った。

部門を超えた会員同士が交流できる数少ない機会でもあり、受賞者のもとより多くの会員の参加が望まれる。会費は六千円(当日会場受付で納入)。

今年、宮城県芸術祭は半世紀を経て、記念すべき50回目を迎えた。

芸術祭の開催は、一九六四年秋に落成予定の県民会館運営のため十三人の文化人が集まったことに端を発する。そこで彼らは当時宮城だけ実施していなかった芸術祭の開催を県に請願。自前の開催に消極的だった

県は、文化人に対して芸術祭のための組織を結成して芸術祭を実施してはどうか、と提言。その諾否を談じたのが栗駒山麓の花山で開かれた会合であった。

創設の先達は郷土の芸術興隆のため悲壮な決意で開催を英断されたことであろう。かくして一九六四年五月十日花山で宮城県芸術協会が創設され(機関紙「はなやま」の題号の由来)、同年の文化の日に第一回芸術祭が開催されたのであった。

以後、芸術祭は民間団体である芸術協会が県、仙台市、河北新報社等の共催を得て運営し、

宮城県芸術祭の半世紀

理事長 早坂貞彦

広く県民の温かい援助で今に至っている。民間による芸術祭の誕生と運営は、内外共に稀有なことで、誇らしいことである。

第一回芸術祭は仙台市内三テパート等を会場に、絵画、書道、彫塑、工芸、音楽、演劇、文芸の七部門二百余名の会員で実施された。これに対して今年の第50回芸術祭は、当芸術協会、県、仙台市、県教委、仙台市教委、河北新報社、県文化振興財団の七者共催で、部門は華道、茶道、写真、舞踊、邦楽を加えた十二部門、会員数は十倍以上の二千二百余名と大所帯に発展した。

芸術協会の目的である「本県における芸術文化の振興発展に寄与する」を達成するための主事業である。杉村彩雨初代理事は常に「会員は郷土の芸術文化振興の奉仕者たれ」と話されていたが、公益法人となった今こそこの言葉を会員は忘れてはなるまい。

公募展・特別企画展で市民参加促進

宮城県芸術祭に今回から、絵画・彫刻・写真部門の公募展が加わり、会場が一段と賑わった。この三部門の公募展は昨年から始まっていたが、昨年は芸術祭併催という形で一般事業として実施された。五月の芸術祭主催七団体による芸術祭委員会、芸術祭事業として実施することが認められたため、第50回芸術祭に組み込まれたものである。当協会は本年度から公益法人となり、これまで以上に公益性の高い事業展開が求められるよ

うになったが、公募展の実施により芸術祭への市民参加が一層促進されることになった。公募展への応募者は、絵画部門一五四人、彫刻部門六人、写

真部門八三人であった。また、絵画展と同時に開催された第50回記念特別企画美術展は、県内で活躍している芸術協会員以外の作家に呼びかけて実現した絵画・彫刻展で、宮城県芸術祭をより県民に開かれたものとして好評であった。

50周年記念行事

三つの部会を設けて推進

平成二十六年度は、当協会の創立五十周年に当たる。記念行事実施のための実行委員会は、平成二十四年度第五回理事会で設置が決まり、理事長、執行理事及び各部門の部長により構成することになった。これを受けて、七月二十二日開催の部長会議で具体的な体制が協議され、実行委員に各部門の副部長を加え、記念式典、記念事業、記念誌の三つの部会に分けて推進していくことになった。

永井優(写真部)

【記念事業部会】執行理事高橋威仙、執行理事大場尚文、〇渡部勝彦(洋楽部)、桜井忠彦(絵画部)、菅原裕(彫刻部)、近藤孝則(工芸部)、千葉蒼玄(書道部)、本内一磯(華道部)、杵屋和加喜久(邦楽部)、大日琳太郎(演劇部)、坂内佳禰(文芸部)、高橋厚子(舞踊部)、大和田宗嬌(茶道部)、笹川義信(写真部)

【記念誌部会】執行理事壺石隆子、執行理事佐々木光一、〇あきた・じゅん(文芸部)、浅野治志(工芸部)、吉田利弘(絵画部)、大槻俊之(彫刻部)、建部恭子(書道部)、朴澤一草(華道部)、佐藤皖山(邦楽部)、鎌田宗節(茶道部)

多くの入場者で賑わう絵画公募展でのギャラリートーク



多くの入場者で賑わう絵画公募展でのギャラリートーク

各部会の構成は次のとおり(敬称略。太字は各部会の世話人、〇印は代表世話人)。
【実行委員長】理事長早坂貞彦
【記念式典部会】理事長早坂貞彦、執行理事田村政晴、〇八島秀(洋楽部)、太田蓮紅(書道部)、

大邱との交流事業

大規模『希望の灯火』 コラボ ともしび 上演

韓国・大邱との交流事業は、九月六日に大邱文化芸術会館で行われた。当協会からは、十一人の出演者に早坂貞彦理事長、大場尚文（実行委員長）・雫石隆子執行理事、白鳥良一事務局長を加えた十五人が訪問した。

当協会では東日本震災に当たって大邱側から寄せられた支援への感謝をこめた演目『希望の灯火』を上演。大邱側からは大邱の音楽家で構成された「イ・カンタンテイ」による男性アンサンブルが演奏された。



「希望の灯火」リハーサル(大邱公演)

『希望の灯火』は、第一部朗読によるスクリーン紙芝居「八郎伝説」、第二部声楽でつづる短詩朗誦「星逢いの祈り」、第三部混声重唱組曲に朗読とスクリーン映像による「希望の灯火」の三部構成。

出演者は洋楽部の渡部勝彦（指揮）・大崎健二（バリトン）・松尾英章（テノール）・佐藤園子（アルト）・北村裕子（ソプラノ）・渡部ジュディス（ソプラノ）・渡辺真理（ピアノ）・若生智彦（ギター）、邦



「星逢いの祈り」舞台(仙台公演)

楽部の佐藤皖山（尺八）・佐藤亜美（二十五弦箏）、演劇部の大日琳太郎（朗読）の各会員と文芸部の雫石隆子執行理事（朗読）。演奏時間は一時間余り、感動的な上演に会場を埋めた観覧者から盛んな拍手を浴びた。

『希望の灯火』では、出演した洋楽部・邦楽部・演劇部・文芸部、目的地である大邱空港に到着した。空

楽部に、写真部・書道部を加えた六部門による大規模コラボレーションが実現。当協会ならではの総合芸術作品となった。

仙台公演も大盛況

大邱に行けなかった会員や市民に広く鑑賞してもらうために企画された『希望の灯火』の仙

今回の十六回を数える、韓国芸術総連合大邱広域市連合会とコラボを実現させ、舞台公演「希望の灯火」を引つ提げて九月五日、アジアナ航空でソウル入り。空路を乗り継いで約一時間、目的地である大邱空港に到着した。空

また、エントランスでは、ご婦人たちによる「ハスの花茶」のお点前があり、来場者と出演者にお茶のおもてなしがあった。終了後は敷地内にあるレストランで交流パーティー。自己紹介やプレゼント交換があり、隣

大邱公演に参加して

執行理事 雫石 隆子

席の役員の方から「復興の灯火は世界中の人に理解と共感

ず、大邱連合会の幹部、事務局の皆様にお出迎えて頂いた。豪華なバスが用意されて、宿泊先のグランドホテルへ。チェックイン後の夕食会で、交流のスタートを切った。

訪問団一行は、出発前夜までリハーサルを繰り返しての大邱市入り。これまでの交流を通して、すっかり顔なじみになって

ホールながら、舞台の両脇に翻訳のテロップが流れる設備があり、心強いことであった。

公演には親日的な人々が招待された大邱市の皆様の温情に対する返礼公演が始まった。出演スタッフは、きついスケジュールを乗り越え、美しい音と声を

を得られるでしょう」の言葉を頂き、公演の成果を思った。

翌日は大邱市内の見学。大邱訪問の最後の夜は、東洋一のオペラハウスで大邱市長も同席のガラコンサートに招待された。文会長の「政治の出来ないことを芸術でやろう」という言葉を胸に、感動的な訪問となった。

原・加藤氏に芸術選奨、小熊氏は新人賞

平成24年度の宮城県芸術選奨の授賞式が7月17日、宮城県知事公館で行われた。当芸術協会の会員では原秀一（美術・洋画）加藤松軒（美術・書）の2氏が芸術選奨に輝き、小熊由里子氏（音楽・楽器）が芸術選奨新人賞を受賞した。

会員外では、勝又豊子（美術・彫刻）西山睦（文芸・俳句）樋渡宏嗣（演劇）荒木飛呂彦（メディア芸術）の4氏が芸術選奨を、加川広重（美術・洋画）志賀理江子（美術・写真）菊池孝彦（文芸・短歌）の3氏が芸術選奨新人賞を、それぞれ受賞した。

芸術選奨



原 秀一氏
(美術・洋画)

日展会友、日洋会委員、河北美術展顧問、宮城県芸術協会評議員として作品を制作。その一方で、東北福祉大学教授を務め「子ども絵画コンテスト」や「仙台市障害者絵画コンテスト」の審査委員、「河北TBCカルチャー」の講師として、後進の指導に当たっている。

引き続き活動の継続と、研究・指導の中心的存在としての活躍が期待される。仙台市青葉区在住。昭和24年生まれ。

新しい具象絵画を追及

今回の県芸術選奨の受賞は、私にとって大きな意義を持っています。三十数年前に新人賞を頂き、その時も授賞式は県知事公館で行われました。心引き締まる思いで、これからもいい絵を描こうと誓った事を思い出し、感無量でした。

様々な表情を持つ扉、深い青の背景の静物などをモチーフに長年制作してきた作品を評価して頂き、感謝しております。今後自分らしい新しい具象絵画を追求していく気持ちを、新たにしました。



加藤松軒氏
(美術・書)

入選率が10割を割る超難関の「日展五科」で平成22年度（第42回）、平成24年度（第44回）と入選を重ね、賞賛に値する実力を示した。

作品は多様性を含んでおり、偶然性を否定。内部構成を思いのままに具現化し、本格的な漢字作家として本領を発揮している。自らの個展に陶淵明詩の超大作を発表、会場を圧倒した。

柴田郡柴田町在住。昭和39年生まれ。

書への見識を高めたい

この度、宮城県芸術選奨を受賞し、身に余る光栄に存じております。

小5の時に大友青陵先生の門をたたきました。「最後まで続けられない人はうちの教室には入れないよ」。子どもが口にした「はい」が始まりでした。それから38年、ただひたすら師の描き出す形を、線を、手を、背中を追い、習字から書道へと歩んできたように思います。

今回の受賞で、突然上手になるわけはありませんが、書への見識を高められるよう精進してまいります。

芸術選奨新人賞



小熊由里子氏
(音楽・楽器)

意欲的かつ魅力的な企画内容の自主リサイタルを開催。さまざまな音楽イベントに積極的に参加し、幅広く活動を展開している。

多くの素晴らしい演奏家との舞台経験を通じて音楽表現を高め、腕を磨いており、県外でも注目、評価されている。今後、自身のピアノリサイタルをはじめ、より一層の幅広い活躍が期待される。

仙台市青葉区在住。昭和45年生まれ。

たゆみなく研鑽・研究を

新人賞の受賞、大変嬉しく、ひとえにこれまで応援、お導き下さいました多くの方々のおかげと存じます。

元々日本に土壌のなかった西洋音楽の分野で意義ある活動を行っていくのは容易なことではありませんが、たゆみなく研鑽、研究を重ね、自身の感性、心のフィルターを通じて表現を探索し、音楽の素晴らしさを伝え、世の中のために生かせる音楽家であるよう、精進いたします。ありがとうございます。

芭蕉と周平の原風景満喫

秋晴れに恵まれた文学散歩

今年の文学散歩は秋田県にかほ市象潟の蚬満寺かまじ、酒田市の土門拳記念館、山居倉庫、日和山公園、鶴岡市では藤沢周平記念館、羽黒山、羽黒山五重塔、注連寺、田麦保多層民家を訪ねた。

一日目（9月25日）定刻少し前に薄曇りの仙台駅を出発。刈り入れの時期を迎えた庄内平野をひたすらバスで行くと、青空を背に秋田富士とも呼ばれる鳥海山が見えてくる。



芭蕉が訪ねた象潟の蚬満寺で住職の説明に聴き入る参加者

どが使われて、小規模ながら充実した魅力的な記念館だ。

羽黒山では三神合祭殿を参拝後、東北最古の五重塔へと石段を上る。高さ29メートル三間五層柿葺の塔は老杉に囲まれて蒼然と建っている。仰ぎ見るだけで心身が浄化されるような気がする。

を目の前にした合歓の丘に到着。そこには観光を意識したような白大理石の西施像が建つ。ここで昼食を取り、蚬満寺へ向かう。ご住職の案内で境内をめぐる。松島と対比しながら、ここを「奥の細道」最北端の地とした芭蕉に思いを馳せ、一時間余り自由に散策を楽しむ。

心を残しながら「土門拳記念館」へ移動する。「開館三十周年記念展」の企画展「古寺巡礼」は、先の震災で傷を受けた心には、とりわけ感銘深く鑑賞した。次は山居倉庫。往時のにぎわいを偲びながら、樺の大樹の下を歩み、外観のみを見学。

この日最後の予定となる日和山公園には、二十九基の文学碑がある。残念ながら数基を見るのみで、夕暮れせまる公園を後に宿泊地あつみ温泉に向かう。二日目（9月26日）素晴らしい秋晴れの朝を出発する。

「藤沢周平記念館」は平成22年開設。資料はもとより自宅より移した庭木、石垣、屋根瓦な

さらに、注連寺にバスを進める。森敦はこの寺に一年間滞在して、小説「月山」を発表した。境内に文学碑があり、小さな資料館がある。この資料館にはホームページがあり、森敦に関心のある向きには検索をお勧めする。能弁なご住職に限らず寺内の説明を受け、即身仏に手を合わせる。

最後の見学地は田麦保に残る兜づくりの多層民家。庄内地方と内陸を結ぶ六十里街道で中間地点に当たるここは、宿場町として栄えたが、今は兜づくりの民家が二棟残るのみ。懐かしさと共に、もの寂しい雰囲気か漂う。

見聞の広がった満足感に浸りながら、予定通りの時刻に帰仙。今回も当番委員の綿密な計画と文芸、書道部会員らによる説明が適時にあり、芸協ならではの濃い文学散歩であった。

（文芸部・佐藤淑子）

鮮やかに生きた日下先生

前理事長 小山 喜三郎



宮城県芸術協会の発足以来長い間ご指導をいただいた

た、名誉会員の日下常由先生が亡くなられたのは、八月の暑い日である。謹んで哀悼の意を表します。

若輩だった私は、あるスケッチ旅行で先生と同室になった。その一夜、先生は「君はよく個展をなさっているが、案内状に学歴や恩師の名を入れないのは何故ですか？」と、真顔で尋ねられました。私は「まだ恩師に恥ずかしくて、暫らくは掲載する気持ちになりません」と答えました。その夜、私なりに先生の胸中を察していたし、反芻し、噛みしめてみたことでした。

宮城正俊先生の啓示もあつて、万葉の世界へ昇華された独特の画風を確立されたのは、独立独歩で精進を重ねられた成果だと思います。中央の公募展・新協美術会の会長をつとめられ、地元では新協の宮城支部を組織

されました。本年春には画業の集大成として「心の万葉集」を刊行されました。

出版記念会で挨拶に立たれた先生は青年のように頬を染め、胸を張って颯爽と輝いておられました。九月初めに開かれた宮城新協支部展では、代表作三点が展示されましたが、燃え尽きるまで努力され、無念の想いで未完となった作品の題名だけがプログラムを淋しく飾り、胸が痛みました。

奇しくも今年は芸術祭が50回目という節目を迎え、加えて公益社団法人の認可を受けた記念の年となります。我々は20年前に芸協の社団法人化に向かって懸命に全力で取り組まれ、芸協の精神的支柱を創りあげられた先生の功績を忘れることは出来ません。先生の卓見に感謝の気持ちで一杯でございます。我々の心のランプに灯をともして消えていった詩人のような先生の後姿と、芸術に立ち向かった一途の生き様は、芸協を照らす不滅の灯となるものと信じ、追想の辞といたします。

事務局主任

鈴木裕子さんが急逝

当協会事務局主任の鈴木裕子さんは、十月五日ごろ仙台市太白区諏訪町の自宅で急逝された。四十三歳。

鈴木主任は平成十八年八月、当協会に臨時職員として任用さ



ありし日の鈴木さん(中国研修旅行)

れ、平成十九年一月には正職員に採用された。経理・庶務を中心に芸術祭や各部門の事業などを担当、七年二カ月にわたり芸術協会の活動を支えてきた。

鈴木主任の仕事ぶりは迅速かつ的確で、配慮が行き届き、多くの部門、会員から頼りにされていた。通夜・告別式にはたくさんの会員が参列し、早過ぎるご逝去を悲しみ、快活で茶目っ気のあるお人柄を偲んだ。

芸術協会は十月二十八日に急きょ理事会を開き、事業等に支障をきたさないよう後任採用の検討を急ぐことを決めた。

事務局日誌

会務報告

- 6・24 部長会議・第50回宮城県芸術祭実行委員会
第50回宮城県芸術祭について
①実行委員について
②事業計画について
③第50回記念企画等について
④各印刷物について
⑤授賞割当て及び部門功績者表彰について
平成25年度大邸との国際交流事業について
その他
部運営規則(内規)の制定につ

- 8・5 理事会
諸規程の制定について
仙台・大邸交流事業仙台公演に伴う平成25年度補正予算について
新入会員(正会員)の承認について
10・28 理事会
職員欠員の欠員について
大邸との交流事業(大邸公演・仙台公演)について
県民会館50周年記念事業との連携について
情報公開規程について
10・28 芸術協50周年記念誌部会(世話人会)

世話人会素案の検討

- ☆人物画研究会第1回小品展 7月3日〜7月8日
☆東北電力グループプラザ 第66回春光会展 8月20日〜8月25日
☆大崎市民ギャラリー「緒絶の館」 8月27日〜9月1日
☆美里町近代文学館 第21回宮城独立美術展 8月23日〜8月28日
☆仙台メディアアテーク 宮城野書人学生会書道展 8月23日〜8月28日
☆仙台メディアアテーク 第37回宮城新協美術展 8月28日〜9月2日
☆東京エレクトロンホール宮城 第32回新芸術東北展 9月6日〜9月11日
☆仙台メディアアテーク 2013仙台オペラ協会第38回公演「こうもり」 9月7日
☆東京エレクトロンホール宮城 千葉蒼玄展「鎮魂と復活 PART II」 9月12日〜9月17日
☆仙台メディアアテーク 第17回東北マンドリンフェスティバル 9月15日
☆日立システムズホール仙台 第28回都山流尺八演奏会 9月22日
☆日立システムズホール仙台 第43回宮城書芸院書展教育部署展 9月27日〜9月29日
☆大崎市民ギャラリー「緒絶の館」 第10回小磯良平大賞展(洋画)
☆第68回行動美術協会展(洋画)
☆伊藤信義▽会友入選▽高橋幸造

Table with columns for award categories (e.g., 一般入選, 第98回院展, 三浦長悦) and recipients (e.g., 坂本和之, 佐々木啓子, 岩澤誠一).

けやきの譜

悲劇は突然に訪れる。10月7日朝、当芸術協会事務局の鈴木裕子さんが自宅の寝室で死亡しているのが発見された。5日夜から6日朝にかけて絞殺されたものと断定されたが、11月に入っても容疑者の逮捕には至っていない▼スラリとした長身で美人で、いつも明るく元気な方であった。仕事もてきぱきとこなしていた彼女の笑顔に、励まされた人も多かったと思う▼捜査が難航?しているうちに、台風26号による伊豆大島(東京都大島町)の土石流による惨事や、東北楽天の日本シリーズ制覇などの大ニュースが続いて、裕子さんの続報も伝えられなくなつた。このまま迷宮入りになるとも思えないが、彼女の無念を思うと1日も早い解決が待たれてならない▼こうした不安を抱えながらも50回目の芸術祭は各種の行事を粛々とこなして11月21日、閉会式を迎える。来年、平成26年は協会発足から50周年の記念すべき年。裕子さんの遺志を継いで、新たなスタートの年にしたいためである。(恂)